



施設概要 小矢部ふるさと歴史館は、小矢部市内の旧石器時代から近世に至るまでの遺跡から出土した考古資料を整理・収蔵・展示する施設です。常設展示室では、桜町遺跡から出土した縄文時代の木製品や土器などの遺物をご覧いただけます。

■開館時間 9:00～16:30
(入館は16:00まで)
■休館日 月曜日
(祝日・振替休日の場合は翌日)
■入館料 無 料
■駐車場 5台
■住 所 小矢部市埴生 274 番地
■電話番号 0766-67-8122

小矢部ふるさと歴史館



ここみちゃん



チェック



▲ 石器 (臼谷岡ノ城北遺跡)



▲ スタンプ型土製品 (埴生上野遺跡)

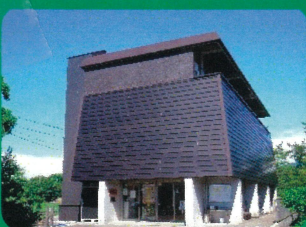


▲ ミニチュア土器 (臼谷岡村遺跡)



▲ 磨製石斧 (桜町遺跡)

小矢部市は、富山県内でも縄文時代の遺跡分布の多い地域として知られており、草創期から晩期にかけて 70 を超える縄文遺跡が確認されています。代表的な遺跡には、桜町遺跡、臼谷岡ノ城遺跡、埴生上野遺跡、臼谷岡村遺跡、高木山遺跡などがあり、なかでも桜町遺跡は、通常残りにくい有機質の遺物が多数残された貴重な事例として、全国からの注目を集めました。今回の企画展では、桜町遺跡の磨製石斧、高木山遺跡の動物をかたどった土製品（表紙参照）や、臼谷岡村遺跡のミニチュア土器など、それぞれの遺跡からの特徴的な出土品をはじめ、縄文土器を時期ごとに紹介します。土器に刻まれた文様や形の変化からは、縄文人の暮らしが垣間見えてきます。この機会に、小矢部に息づく縄文の歴史と文化の魅力に、じっくりとふれていただければ幸いです。



施設概要 越中一宮「高瀬神社」の南、国史跡「高瀬遺跡」の公園内にあります。市内の遺跡で発掘された選りすぐりの出土品を一堂に展示しています。また歴史体験コーナーもあり、勾玉づくりや火起こしなど様々なメニューを用意しています。

■開館時間 9:00～17:00
■休館日 火曜日・年末年始
■入館料 無 料
■駐車場 普通車 30 台
■住 所 南砺市高瀬 736
■電話番号 0763-82-5050

南砺市埋蔵文化財センター



NANTOくん



チェック



▲ ヒスイ製大珠 (東中江遺跡)



▲ けつ状耳飾り (五瀬遺跡)



▲ 両頭尖頭器 (天神A遺跡)

南砺市の縄文時代の遺跡は 301 か所あり、各時代の遺跡のなかで一番多く確認されています。本市の縄文遺跡は、気候が温暖化した前期から遺跡の増加がみられ、中期が最盛期となり、後期以降、気候の寒冷化とともに、遺跡数が減少していきます。平野部では集落遺跡（西原遺跡等）や宗教的遺構とされる環状木柱列遺構（井口遺跡）が、五箇山では遺跡の存続期間が晩期まで続く長期的な遺跡（矢張下島遺跡）が確認されるといった特徴がみられます。これらの縄文遺跡の中から代表的な出土品を紹介します。

氷見市

朝日貝塚



高岡市

勝木原オジャラ遺跡



射水市

中山中遺跡



とやま呉西圏域連携事業
「歴史文化の学び交流事業」合同企画展

呉西の縄文ワールド

令和7年 10月1日(水)
～ 10月31日(金)

砺波市

中尾遺跡



小矢部市

高木山遺跡



南砺市

西原遺跡



富山県呉西地域（高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市）は、海・山・平野が織りなす豊かな風土の中で、古代より人々が暮らしを営み、現代へと続く歴史と文化を育んできた地域です。本企画展では、呉西6市が「縄文」をテーマに連携し、各市から出土した生活用具や祭祀用具を、それぞれの展示会場で紹介します。

自然とともに営まれた「呉西の縄文ワールド」の奥深さを、各市展示会場を巡りながら楽しみください。

スタンプラリーのご案内



「呉西の縄文ワールド」開催の6会場のうち、3会場以上を回られた方に、各市オリジナル缶バッジを、回った会場の数プレゼントします。（数量限定）3会場目以降に訪れた会場で「押印済のパンフレット」をご提示ください。



施設概要 考古資料の展示や体験学習を通じて、「モノ」や「昔むかし」の人の暮らしの工夫」に接することで、地域の歴史を再発見し、高岡の歴史に親しむことを目的とした施設です。本物の土器や石器に触れ、重さや感触を体感できるコーナーもあります。

- 開館時間 9:00～16:00
- 休館日 月・火曜日
(祝日・振替休日の場合は翌日)
- 入館料 無料
- 駐車場 普通車 50 台、大型可
- 住所 高岡市西広谷 249
- 電話番号 0766-31-1264

高岡市埋蔵文化財センター



まかたん



▲ 漆塗土器 (上野A遺跡)



◀ 深鉢 (勝木原オジャラ遺跡)

▲ 浅鉢 (勝木原オジャラ遺跡)

▲ 深鉢 (小竹藪遺跡)

高岡市の縄文遺跡は、小矢部川沿いに連なる二上山丘陵や西山丘陵などの丘陵部のほか、現在、高岡古城公園がある高岡台地など、標高 15m 以上の高い場所に立地しています。代表的な遺跡は、昭和 38 年 (1963) に高岡文化保存会が発掘した小竹藪遺跡 (縄文中・後期) や、昭和 39 年 (1964)・40 年 (1965) に高岡工芸高等学校校地歴クラブが発掘した勝木原オジャラ遺跡 (縄文後・晩期)、平成 13 年 (2001) に道路改良工事に伴い発掘調査された上野 A 遺跡 (縄文前期) が挙げられます。本展では縄文前期の漆塗の土器 (上野 A 遺跡) や縄文中期の縄文土器 (小竹藪遺跡)、縄文晩期の土偶や縄文土器 (勝木原オジャラ遺跡) など、高岡市を代表する出土品を紹介します。



施設概要 射水市内で実施した遺跡発掘調査の整理作業と、出土遺物及び発掘調査記録 (写真・図面) の保管・管理を行っております。展示コーナーでは、縄文時代から戦国時代までの市内の代表的な遺跡を出土品と写真パネルで紹介しています。

- 開館時間 9:00～16:30
- 休館日 月・火・金曜 (詳しくは射水市ホームページでご確認ください)
- 入館料 無料
- 駐車場 10 台
- 住所 射水市三ヶ 1769 番 10
- 電話番号 0766-55-2238

射水市埋蔵文化財センター



まゆげちゃんどろりん

土偶
(中山中遺跡)土偶
(中山中遺跡)

▲ 土器片 (中山中遺跡)

注口土器片
(中山中遺跡)

▲ 土器片 (中山中遺跡)

射水市内には、約 460 か所の遺跡があり、そのうち 100 か所あまりで縄文時代の遺跡が確認されています。縄文時代前期～中期は、現在より温暖で、海水面が上昇して海岸線が射水平野の奥まで入り込んでいました。そのため、縄文時代の遺跡の多くが丘陵上に立地しています。この企画展では、南太閤山Ⅰ遺跡、串田新遺跡、中山中遺跡の 3 遺跡を紹介します。南太閤山Ⅰ遺跡は、市内最古の縄文遺跡です。早期末葉～前期前葉の廃棄場が見つかっており、大量の骨やクルミなどと共に、前期前葉の佐波・極楽寺式土器が出土しました。串田新遺跡は、独立丘陵上に営まれた集落遺跡です。出土した土器は、北陸の縄文時代中期後半の基準となる土器として「串田新式」と呼ばれています。中山中遺跡は、射水丘陵北端にあり、土器捨て場とみられる谷が見つっています。後期・晩期の縄文土器や土偶が出土しています。

氷見市立博物館

獣面把手
(朝日貝塚)

▲ 土偶 (四十塚遺跡)

▲ 土偶 (朝日貝塚)



獣面把手 (朝日貝塚)



▲ 深鉢 (朝日貝塚)



▲ 獣面土器 (岩上遺跡)

▲ 獣面土器 (岩上遺跡)

氷見市の縄文時代の遺跡は、早期中葉から晩期後葉まで 40 か所以上あります。氷見の縄文人は、海沿いの丘陵裾を中心にムラを営み、海の幸と山の幸の両方を獲得していました。さらに最盛期の中期後葉から後期前葉にかけては、丘陵部にも進出し、山奥にまでムラが広がっています。今回の展示では、大正時代に調査が行われた国指定史跡朝日貝塚の縄文土器から、代表的なものを出品します。また、有名な「バスケット形土器 (朝日貝塚、中期)」のレプリカをはじめ、「おだやかな表情 (朝日貝塚、晩期)」と「おどろきの表情 (四十塚遺跡、後期)」の対照的な顔をみせる 2 つの土偶や、「へび」を表したとみられる 2 つの「獣面把手 (朝日貝塚、前期)」、「イノシシ」をかたどったとみられる 2 つの「獣面土器 (岩上遺跡、中期)」なども展示しています。



施設概要 「氷見の歴史」「氷見の漁業」「氷見の農家の暮らし」をテーマに、資料の収集・展示をしています。「氷見の歴史」コーナーでは、市内の遺跡出土の縄文土器・弥生土器・古墳副葬品・大境洞窟のジオラマなどを中心に、氷見地域の歴史を概観できます。

- 開館時間 9:00～17:00
(入館は 16:30 まで)
- 休館日 月曜日 (祝日の場合は翌日)
- 入館料 スタンプラリー参加者は無料
- 駐車場 普通車 50 台
- 住所 氷見市本町 4 番 9 号
- 電話番号 0766-74-8231

砺波市埋蔵文化財センター しるし



▲ 松原遺跡

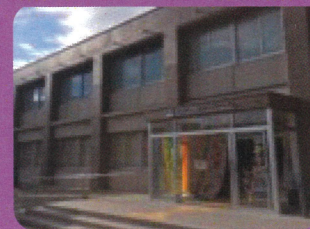
土偶
(徳万頼成遺跡)
「ほほえみの土偶」

土偶 (徳万頼成遺跡)

▲ 松原遺跡完形土器群

砺波市内には縄文時代中期の遺跡が多く存在します。そのうちの 1 つ、松原遺跡は庄川左岸扇頂部段丘上の標高 100 ～ 105m にひろがる大規模な集落跡です。遺跡の範囲は東西約 600m、南北約 280m におよびます。昭和 43 年 (1968) から平成 22 年 (2010) の間に 6 回にわたり発掘調査が行われ、縄文時代中期前葉から後葉にかけて多数の遺構や遺物が出土しました。松原遺跡と出土土器 15 点は市の文化財に指定されています。

徳万頼成遺跡では、平成 26 年 (2014) に国道 359 号砺波東バイパスの工事に伴う調査で、縄文時代中期の竪穴建物 2 棟が発見されました。そこから出土した「徳万頼成遺跡の土偶」(市指定文化財) は、「ほほえみの土偶」の愛称で親しまれ、埋蔵文化財センターで展示しています。



施設概要 砺波市内の出土品の展示・保管、埋蔵文化財の調査・研究、普及啓発活動などを行っています。幅広い世代の方々で埋蔵文化財に親しむことをめざし、解説文はシンプルに、かつ子供にもわかりやすい展示を心がけています。古代豪族・利波臣志留志にちなみ、施設の名前は「しるし」といいます。

- 開館時間 9:00～17:00
- 休館日 月曜・第 3 日曜・祝日・年末年始
(祝日が月曜に当たるときは、その翌日も休館)
- 入館料 無料
- 駐車場 庄東小学校 体育館前
- 住所 砺波市頼成 556
- 電話番号 0763-37-1303